



日本取引所グループ
ロンドン駐在員事務所
アンナ・ヒル

—連載（第13回）—

ロンドン市長選挙 6ヶ月の競争が始まる



■ 1. はじめに

来年2016年5月、ロンドン市民は新しい市長を選出する。本年5月の総選挙のちょうど1年後だ。総選挙で大敗した労働党は、強硬左派の党首を選出した結果、派閥抗争が激化し危機的な状態に陥っている。うって変わって、総選挙で大勝して過半数を取った保守党は、野党第一党である労働党の混乱を利用して安定した政権運営を行っている。来年の市長選挙にこの単純に政党競争の構図を当てはめれば、保守党が勝つことになろうが、ロンドン市長選挙は英国で珍しく、伝統的に政党の影響が薄い選挙である。本稿では、この市場選挙で珍しい事象が起きているのかその簡単な検証と、今回の選挙の候補者を紹介してみたい。

ロンドン市長職の歴史は、意外と新しく、それまで存在したグレーター・ロンドン・カウンシルの廃止等、様々な行政改革を経て、

直接、ロンドン市のトップを直接選出できるようになったということで、2000年に設置されたものである。初代、市長に就任したのは労働党のケン・リビングストン氏だった。リビングストン氏は8年間市長を務め、2008年の選挙も出馬したのだったが、保守党のボリス・ジョンソン現市長に負けた。ジョンソン氏は本年5月の総選挙に、来年5月の任期満了で市長を辞めることを約束した上で、立候補・当選しているため、5月まで市長と国会議員を同時に務めている。

■ 2. ロンドン市長とは大ロンドン市長！

英国外では、金融街のCity of Londonの行政長（Lord Mayor of London）をロンドン市長と誤解する人がいると聞く。ロンドン市長（Mayor of London）は、Cityを中心に西はヒースロー空港までを半径とした円形のような範囲を所管している。この行政範囲をグ



レーター・ロンドン（Greater London、面積1,572平方キロメートル）と呼ぶことから日本語訳では大ロンドン市長となることがあるようである。グレーター・ロンドンの人口は830万人で英国人口の約13%である。ロンドン市長は170億ポンド（約3,000億円）の予算額を政府から譲り受け、居住者と労働者の環境改善に向けた市政に務めている。市内の自然環境の保護、交通機関、警察までもが所管の対象である（注1）。

歴代のロンドン市長が導入した改善策を少し紹介しよう。最も知られている政策は交通機関に関するものが多く、この15年間でロンドン市内の交通事情は大きく変わった。

初代のリビングストン市長は、ロンドン市内の渋滞を緩和する目的で通行税（Congestion Charge）を設け、2003年から、ロンドン市内の中心にあたる特定の地域に車で通行する市民は、その都度、毎日課税されることとなった。その結果、対象となった地域では、車の数が2002年から2006年まで、21%減少したという。その一方、タクシー、自転車、及びバスや地下鉄の利用者が増加した（注2）。

通行税導入の直後に、リビングストン市長は交通機関で利用できるスマートカード「Oysterカード」を導入した。Oysterカードの利用は当初はバスと地下鉄に限られていたが、これを2010年にはロンドンの鉄道（市内のみ）にまで拡大した。2013年には、Oysterカードの機能を向上させ、10年前と比較して、

地下鉄駅で改札口を通れる人数を25人から40人まで増加させることに成功した（注3）。

2008年、市長として就任した現職のジョンソン氏は、ロンドンオリンピック成功の立役者である。同氏が導入したレンタル自転車は現在も幅広く通勤者等に利用されている（注4）。しかし、この自転車に関しては、ジョンソン氏は負の遺産も設けてしまった。それは、2013年から整備を進めている「Cycle superhighway（自転車大道路）」である。Cycle Superhighwayとは自転車のみが利用できる道路で、現在もロンドン中でその整備が進められているが難航している。ロンドンの中心街の道は古くて狭く、自転車専用の道路を作るのが非常に難しい。一方で、自転車活用を積極化した結果、2010年から2014年まで、67人にも達する自転車の死亡事故が起きてしまった（注5）。これでジョンソン市長は、自転車のための安全な道路を作りたいと考え、現在、難航している自転車道整備を推進しようとしている。来年5月に就任する市長は、ジョンソン市長のこの政策にどのように対処していくのだろうか。既に、完成されている道路もあれば、市民に支持されているという事情もあり、おそらくは継続ということになるのではないかな。

■ 3. 個性の対決

ロンドン市長選挙では、各政党が候補者1人を決めて行う選挙で、無所属の立候補も可



としている。候補者は政党を代表していることになるが、これまで、ロンドン市長選挙に出馬した候補者をみると、自分の主義主張が強い個性派揃いであったため、選挙は政党対決というより個性対決で選挙が行われてきた。

まず初代市長のリビングストン氏であるが、労働党の議員であったが、2000年の選挙では、トニー・ブレア首相と政治観で折り合いが合わず労働党の候補者となれなかった。そこで同氏は無所属候補者として出馬し、労働党、他の政党代表をのきなみ破り当選を果たした。2004年選挙では、ブレア首相も同氏の人気を認めざるを得ず、労働党の代表となり優に当選を果たした。

二代目市長のジョンソン氏は、ロンドンで選出された議員数で労働党が保守党の2倍を持っていた時代に、保守党の候補者として当選した。歯に衣着せぬ物言いが市民から強く支持されたのだった。

そして、三代目を決める今回も、これまで同様、個性対決になると見られている。

なお、ロンドン市長選挙で労働党と保守党だけでなく、自由民主党、緑の党、及びイギリス独立党（UKIP）に加えて、無所属候補者も出馬しているが、これまでの選挙を見ても、第1党と第2党（今回で言えば、保守党と労働党）以外の候補者は、市民のあまり注目を集めていない。2012年の選挙を例えにすると、候補者7人の中で、上位2党の候補者は合計で投票の84.3%（注6）、2008年も78.8%

であった（注7）。この点は今回も同様であろう。今回の注目2人は、以下の保守党と労働党の代表である。以下で見てみよう。

保守党 ザック・ゴールドスミス



©zacgoldsmith.com

ゴールドスミス氏は40歳で、有名な億万長者の子息である。国會議員に選出されたのは2010年と最近のことである。自

身の選挙区であるロンドン南西の郊外では非常に人気が高く、2015年の総選挙では、前回比8.5%増となる58.2%の投票を獲得した（注8）。同氏は責任感が強く、不正行為をした議員に辞任を迫る手続きを容易にする政策に取り組んだことが人気の秘訣といえる。市長選挙の出馬にあたっては、自費で選挙区で賛否を問う投票を行うことで、選挙区民から出馬への「許可」を得た。熱心な環境保護主義者でもあり、議員になる前に、環境問題を対象とする雑誌の編集者を務めていた。政府が計画しているヒースロー空港の拡大を強く反対し、市長となった際には、その反対を優先政策の一つとして取り上げている。英国のEU離脱について、考えを明らかにしていないが、父親は反EU姿勢を公言したことがあるため、EU離脱に賛成する可能性が高いと

見られている（注9）。

労働党 サディク・カン



©sadiq.london

カン氏は45歳である。父親はパキスタンからの移民で、仕事はバスの運転士だった。カン氏は家が貧乏だということを強調して、お金持ちであるゴールドスミス氏との違いをアピールすると思われる。カン氏は人権派弁護士を務めていたが、2005年にロンドン初のイスラム教議員、2009年に英国初のイスラム教大臣となった。2010年の労働党党首選挙では、カン氏は党首となったエド・ミリバンド氏の選挙運動で重要な役を務め、それが成功した結果、2015年までのシャドー・キャビネットの一員となっていた（注10）。市長となった際の優先政策としては、公営住宅や最低賃金の増加等上げているが、同時に「歴代の中で、最も企業を支援する市長」になることも公約に掲げている（注11）。カン氏は元々ヒースロー空港の拡大を賛成していたが、ロンドン市長への出馬が決まってから、反対の姿勢に転換した（注12）。EUに関しては、英国の離脱に強く反対している。

4. 互角の競争

英国最大世論調査会社のYouGovが10月9日に行った世論調査によると、2人は現在ほぼ互角だ。いくつかの質問項目があるが、「危機の際に信頼できるか」、「好感度があるか」、「ロンドン市長の仕事ができそうか」という3点でほぼ同数であった。1点だけ大差がついた項目が「一般庶民の気持ちを理解できるか」という点で、これは、YESの割合はゴールドスミス氏が31%で、カン氏が71%という結果だった（注13）。ゴールドスミス氏はお金持ちの強いイメージを市民から払拭することは難しいため、カン氏に勝つためには、政策と性格で勝負するしかないと考えているようである。

ゴールドスミス氏が持つ個人の富は、確かに低所得者に不快感を持たせる原因になっているが、一方で、環境問題等への献身は好感を呼んでいる。特にヒースロー拡大の問題について、2012年の世論調査では、拡大に賛成するロンドン市民は15%しかいなかったため、そこは支持層になるであろう（注14）。一方、カン氏は、人権派弁護士ということで庶民の間で好感を持たれているが、反イスラム教感情が高まりつつある中、イスラム教であることはマイナス点となる可能性がある。その上、カン氏はヒースロー空港の拡大について姿勢を転換しており、この行動は計算高いと悪評を招く声がある。



ロンドン市長選挙はまだ6ヶ月先だが、既に面白い競走が始まっている。

(注1) <http://www.londonelects.org.uk/im-voter/what-mayor-london-and-london-assembly-do>

(注2) <http://www.independent.co.uk/news/uk/home-news/the-big-question-has-the-congestion-charge-been-effective-in-reducing-londons-traffic-781505.html>

(注3) <http://www.bbc.co.uk/news/uk-england-london-23120759>

(注4) <http://blogs.telegraph.co.uk/news/conradquiltyharper/100051161/the-truth-about-boriss-london-cycle-hire-scheme-revealed-by-pretty-graphs-you-can-play-with/>

(注5) <http://www.bbc.co.uk/news/uk-england-london-33002701>

(注6) <http://www.bbc.co.uk/news/special/vote2012/mayor/>

(注7) <http://news.bbc.co.uk/1/shared/bsp/hi/elections/london/08/html/mayor.stm>

(注8) <http://www.bbc.co.uk/news/politics/constituencies/E14000896>

(注9) <http://www.bbc.co.uk/news/uk-england-london-34401753>

(注10) <http://www.bbc.co.uk/news/uk-england-london-34222255>

(注11) <http://www.sadiq.london/workandskills>

(注12) <http://www.bbc.co.uk/news/uk-politics-34218390>

(注13) http://www.huffingtonpost.co.uk/2015/10/09/zac-goldsmith-and-sadiq-khan-neck-and-neck-in-london-mayor-race_n_8269744.html

(注14) <https://www.ipsos-mori.com/researchpublications/researcharchive/2942/Boris-Island-or-Heathrow-3rd-runway.aspx>

